

2015（平成27）年度 前期（2級第14回）キャリア・コンサルティング技能検定

学科試験問題と『キャリアの青本Ⅱ』の該当ページ 一覧

問題	範囲・内容	該当ページ
1	1-①社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性	5頁以下、20頁以下、23頁以下
2	1-①若年者のキャリア形成を取り巻く環境	218頁以下、115頁、256頁以下
3	1-②中長期的なキャリア形成支援における必要性	103頁以下
4	1-③キャリア・コンサルタントの活動範囲と義務	25頁以下、27頁以下
5	1-③相談者のメンタルの問題への対応	27頁以下、240頁以下、321頁
6	2-①発達論的アプローチ	シャイン37頁、ハンセン38頁、スーパー35頁以下、ギンズバーグ36頁
7	2-①キャリアの理論（個人と環境との関係）	シュロスバーグ38頁、ホランド30頁以下、パーソンズ31頁以下、バンデューラ48頁
8	2-①クランボルト	48頁以下
9	2-①シュロスバーグの理論（転機における4つのS）	38頁
10	2-②カウンセリングの理論	来談者中心療法57頁以下、精神分析58頁以下、行動療法61頁、交流分析63頁
11	2-②グループ・エンカウンター	67頁以下、292頁以下
12	2-②防御機能	52頁
13	2-③自己理解の方法（検査法）	71頁
14	2-③VRT	72頁以下
15	2-③自己理解	45頁、283頁、72頁、GATB74頁
16	2-④職務分析・職務調査・職業調査	80頁以下
17	2-④仕事・職業理解	80頁以下、キャリア・インサイト82頁
18	2-④職業情報・職業分類	厚生労働省編職業分類79頁、職業ハンドブックOHBV82頁、日本標準職業分類80頁
19	2-⑤ものづくり人材（2014年版ものづくり白書）	11頁、87頁
20	2-⑤平成25年度「能力開発基本調査」	教育訓練97頁以下、自己啓発100頁以下
21	2-⑥賃金管理	128頁以下
22	2-⑥人事管理（人事考課）	119頁以下
23	2-⑥賃金と労働条件	総合職と一般職117頁、職能資格制度115頁以下、パートタイム労働法188頁
24	2-⑦産業構造・労働市場の動向	完全失業率149頁以下、有効求人倍率151頁以下
25	2-⑦労働市場に関する指標	完全失業率149頁以下、有効求人倍率151頁以下

26	2-⑧労働関係法規	男女雇用機会均等法 184 頁、労働基準法 174 頁以下、労働契約法 177 頁以下
27	2-⑧労働基準法	174 頁以下
28	2-⑨学校教育制度（高校の教育目標）	204 頁以下
29	2-⑩睡眠	228 頁以下
30	2-⑩メンタルヘルス	指針 230 頁以下、うつ病 241 頁以下、アルコール依存症 243 頁、強迫性障害 243 頁
31	2-⑩精神障害を有する労働者の職場復帰	234 頁以下
32	2-⑪エリクソン	40 頁以下
33	2-⑪職業キャリアの発展期における課題	248 頁
34	2-⑪成人期の課題	スーパー35 頁以下、レビンソン 42 頁、ハンセン 38 頁、エリクソン 40 頁
35	2-⑫キャリアの転機	レビンソン 42 頁、ハンセン 38 頁、シュロスバーグ 38 頁
36	2-⑬発達障害	278 頁以下、243 頁以下
37	3-①ジョブ・カード「志望動機」の書き方	112 頁、キャリア・シートの作成指導 294 頁以下
38	3-①グループ・カウンセリング	292 頁以下
39	3-①モデリングによる学習	48 頁
40	3-②トライアル雇用	126 頁
41	3-②ジョブ・カード作成のメリット	111 頁以下
42	3-②アセスメントツール受検者へのフィードバック	302 頁
43	4-①キャリア・コンサルティングに関する教育・普及活動	20 頁以下、311 頁以下
44	4-①キャリア・コンサルティングに関する教育・普及活動	87 頁以下、15 頁以下
45	4-②環境への働きかけの認識と実践	27 頁以下、311 頁以下、316 頁以下
46	4-②環境への働きかけ（リエゾン活動）	314 頁以下
47	4-③ネットワークの認識と実践	321 頁、223 頁、25 頁以下
48	4-④スーパービジョン	327 頁以下
49	4-④自己研鑽	324 頁以下
50	4-⑤キャリア・コンサルタントの姿勢	25 頁以下、331 頁以下

【2 級 第 14 回試験問題の分析】

◆難易度分析

- ・今回、正答率が低いと思われる問題は、次のとおりである。
- ① これまで未出題であった内容の出題：問 12、問 19、問 39
- ②細かい知識・数字を問う出題：問 2、問 3、問 14
- ③言葉の意味・内容を問う出題：問 15、問 23、問 46
- ・それ以外の問題は、これまでと変わらない難易度であった。
- ・必ず得点できる（得点しなければならない）問題・分野で、きちんと得点を積み上げることができれば、合格ラインに到達できる。

◆傾向分析

- ・各分野に必要な基本的な理解の出題であることはこれまでと大きく変わらない。
- ・細かい知識や数字を問う出題や、日本語の語感で正解を導きだせる出題が見られる。

【今後の勉強へのアドバイス】

①合格ライン（50 問中 35 問：70 点）を確実にクリアするために、「毎回のように出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する。
②「レアな問題」や「細かい数字や些末な知識を問う問題」にとらわれるよりも、『キャリアの青本Ⅱ』を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を図るとともに、「キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な知識を中心に習得し、ここを得点源とする。
③「過去問」とともに『キャリアの赤本』を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」がどこか、出題のされ方がどうかなどを把握し、確実に得点できるようにしておく。
④科目・範囲ごとに、得点するために必要な知識の量、これまで出題された問題数、問題の難易度などを分析し、限られた時間を有効に使って合格するためには、どこを攻略するかを戦略を組み立てる。
⑤試験に慣れて、知識以外の「日本語の語感による正答（例：必要がない、かならず等の語彙は要注意）発見のテクニック」や時間配分の技術（50 問を 100 分で解いて、見直す時間を確保する方法）、ケアレスミスをなくす方法を体得することで、得点の上積みを実現する（このテクニックを知るだけで、かなりの得点アップが見込める）。